

## 情報公開文書

研究の名称	脳動脈瘤の流体解析
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	大学院医学薬学研究部 脳神経外科学 助教 堀 恵美子
研究の概要	<p><b>【研究対象者】</b> 富山大学脳神経外科にて、2005年1月1日以降にMRIや造影CTA、血管撮影で脳動脈瘤と診断された患者さん</p> <p><b>【研究の目的・意義】</b> くも膜下出血は治療法が進歩している現在でも、約半数が生命に関わったり、大きな後遺症を残し、生命予後だけではなく機能予後にも大きく影響を及ぼす疾患です。その原因は大部分が脳動脈瘤の破裂で、これまでの報告では成人の約5%が未破裂脳動脈瘤を有しているとされ、その破裂率は年間約1%とされています。くも膜下出血を未然に防ぐためには、開頭脳動脈瘤頸部クリッピング術やコイル塞栓術といった侵襲的手術が必要で、その形状や部位、大きさなどといった破裂リスクを考慮し、治療が行われています。しかしリスクが低いとされた症例でも、その後、増大や破裂をきたす症例があり、その機序には未だ不明な点も多く残されています。本研究では、臨床的データに加えて、動脈瘤の血行力学的解析を行い、動脈瘤の増大や破裂に関わる因子を解明することが目的です。</p> <p><b>【研究の方法】</b> 本研究では対象患者さんの患者情報（診療録、血液データ、MRI、造影CTA、血管撮影）を用いて研究を行います。患者情報は情報を統計解析するために用い、画像データは血流解析やその後の変化を見るために用います。</p> <p><b>【研究期間】</b> 承認日から2035年12月31日まで</p> <p><b>【研究結果の公表の方法】</b> 本研究の結果は、国内、国外の脳卒中関連の学会で発表します。 また脳卒中関連の雑誌に発表を行います。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	本研究は済生会富山病院との共同研究ですが、得られた情報の提供は行いません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	共同研究機関 済生会富山病院 施設責任者 堀江 幸男 研究責任者 高 正圭
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学大学院医学薬学研究部 脳神経外科学 助教 堀 恵美子
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。

電話 076-434-7348

FAX 076-434-5034

E-mail eh461116@med.u-toyama.ac.jp

担当者所属・氏名 脳神経外科 助教 堀 恵美子